

# 関係機関に 意見書を提出しました



## 携帯電話リサイクルの推進を 求める意見書

ような状況を受け、資源エネルギー庁に設置された「資源戦略研究会」が平成18年にとりまとめた報告書「非鉄金属資源の安定供給確保に向けた戦略」では、使用済み製品に使われたレアメタルの再利用推進が重視されている。なかで

レアメタルを含む非鉄金属はわが国の産業競争力の要とも言われており、その安定確保はわが国の産業にとつて重要な課題である。近年、国際価格の高騰や資源獲得競争の激化により、その確保に懸念が生じている。貴重な鉱物資源をめぐるとの

も普及台数が1億台を超えている携帯電話には、リチウム、希土類、インジウム、金、銀などが含まれており、これらを含んだ使用済みの携帯電話は他のレアメタルなどを含む使用済み製品とともに「都市鉱山」として、適切な処理と有用資源の回収が期待されている。しかし、使用済み携帯電話の回収実績は2000年の1362万台をピークに減少傾向が続いており、2006年には約662万台に半減している。回収率向上のための課題として、携帯電話ユーザーへのリサイクル方法の情報提供、携帯電話のリサイクル活動を行うMRN(モバイル・リサイクル・ネットワーク)の認知度向上、ACアダプター等の充電器を標準化することによる省資源化などが指摘されているところである。

そこで、政府に対して、使用済みの携帯電話の適正な処理とレアメタル等の有用な資源の回収促進を図るため、次の事項について早急な対策を講じるよう強く求める。

1 携帯電話の買い換え・解約時において、ユーザーに対して販売員からリサイクルの情報提供を行うことを定める等、携帯電話の回収促進のために必要な法整備を行うこと

# 視察研修 レポート

5/16

## 特別支援教室の現状と 小学校授業の現状

「藤久保小学校」を視察

まず、16日の調査は、児童数の一番多い藤久保小学校を訪れました。

### 特別支援教育の 大変さを実感

特別支援教室「ひまわり」は生徒数15人、低学年と高学年の2クラスに分かれ、児童一人ひとりの障がいの状態に応じた個別指導計画に基づき、自立に向けた教育支援を行っていました。

調査の日は2クラスが一緒に、学校図書館司書による本の読み聞かせの授業を行っていました。障がいによっては本読みが終わるまで椅子に座っているのも大変だろうと思いますが、教員が一人ひとりに声をかけている姿に、特別支援教育の大変さを肌で感じました。また現在、介助員が一人足りないというところで、学習指導員(町が各学校に一人ずつ配置している)が介助員の役割を



### 学んでよかったと 思える学校へ

次に、授業の現状ということで、1年生(学校内探検の感想発表)、3年生(算数・図工)、6年生(家庭科)の授業を参観させていただきました。

担っておりました。専任の介助員配置が急務であり、対応が急がれます。

5/22

## 保育行政の現状

「べビールームつくし」「桑の実三芳保育園」「北永井学童保育室」を視察

22日には、町指定の家庭保育室「べビールームつくし」ここ、本町第1号の民間の認可保育所「桑の実三芳保育園」及び北永井学童保育室を調査しました。

### 家庭保育室の運営状況

家庭保育室は民間の施設ですが、その運営に対し3歳未満児の入室人数により、町が補助金を出しています。保育室はあまり広くはありませんが、保育士は経験豊富なようでした。室長の話では、年度初めは定員に届かず運営は厳しいとのことでした。今回は保育状況の調査をす

### 地域に開かれた 保育園を目指して

桑の実三芳保育園は、施設は新しく、子どもたちや従業員の出入りチェックも機械化されており、セキュリティも考えられた、設備の整った保育園です。保育の内容は、町営の3保育所と比べても劣ってはいないと思われました。また、子育て支援センター、一時保育事業も行っており、子育てに関する講演会も実施予定とのこと、地域に開かれた保育園

120人ということで、3クラス(1クラス40人)です。1年生、2年生は埼玉県の基準で35人学級ですが、3年生以上は国の基準が40人となることから、そのようなクラス編成になったと、同行の学校教育課長から説明がありました。少人数学級等での対応が望まれます。

### 学童保育室の問題

北永井学童保育室は今年度定員70名を大きく超過して88名の児童の入室を許可しました。調査の日は天候がよかったことから、外で遊ぶ児童が多く、保育室に児童が窮屈に過ごしている状況は確認できませんでした。

この学童保育室は三芳小学校内に設置されていますが、三芳小学校の児童75人にあわせ、上富小学校の13人の児童も入室しております。上富小学校の児童は、放課後この学童保育室へ車で送迎されていますが、上富小学校内に学童保育室が設置できれば、このような問題も解消できるのではないかと思います。早急な対応が望まれます。昨年に引き続き、町内の教育・福祉施設を調査してまいりましたが、町内の現状をよく知ることは、今後の町発展のために大変参考となるものでした。

## 子宮頸がん予防ワクチンに関する意見書

女性のがんである子宮頸がんの死亡率は高く、毎年約8000人が子宮頸がんを診断され、約2500人が亡くなっています。

子宮頸がんには、他のがんにはない特徴があります。一つは、発症年齢が低いということです。子宮頸がんの発症年齢層のピークは年々低年齢化しており、1978年ごろは50歳以降だったのに対し、1998年には30代になり、20代、30代の若い女性の子宮頸がんが急増しています。

もう一つは、子宮頸がんの原因のほとんどが、ヒトパピローマウイルス(HPV)による感染であるということです。8割近くの女性が一生のうちHPVに感染するものの、感染した女性がすべて発症するわけではなく、持続感染によ

の簡略化等による省資源化を実現すること

《厚生文教常任委員会は、5月16日・22日に町内の教育施設及び保育施設の所管事務調査を実施しました》

**輸入食品・農産物の安全対策と検査体制の抜本的見直し及び食料自給率の向上を求める意見書**

中国製の冷凍餃子による中毒事件は、体調不良を訴えた人が38都道府県で5000人を超え、輸入食品を原因とした未曾有の事件となり、消費者の不安を増大させました。この事件は、食料の61%を輸入に依存しているわが国の検査体制や食品安全体制の脆弱さにあり、国の責任は重大です。

問題の食品は、検査所で残留農薬検査を受けていないものです。これは、国民の強い要求によって2006年度以降、輸入冷凍加工食品についても残留農薬検査対象になったにもかかわらず、厚生労働省は「加工食品は、いくつもの原材料を使っているために、汚染の特定と基準の設定が難しい」という理由で検査対象から除外しているため、膨大な量の冷凍加工食品が野放しにされていることに起因するものです。しかし、検査をしていけば汚染材料の特定は難しいとしても、残留農薬は検出できたはずで、

このため、例えば2007年度、年間200万件近い食品輸入の届出のうち、残留農

薬の検査は2万6千件あまりにとどまっております。まことに憂慮される事態といわなければなりません。

また、全国30カ所にある検査所の食品安全監視員はわずか334名にすぎず、検査は輸入食品の3〜10%、一部の抽出検査にとどまっているのが実態です。

今回の事件では、多くの国民が不安を募らせ、真相の解明を求め、事件の全容を公表することを求めています。

よって政府においては、輸入食品、農産物の安全対策と検査体制の抜本的見直しを図ることなど、次の事項の実現を強く要望するものです。

- 1 輸入食品・農産物の検査体制・検査体制の強化
- 2 輸入業者に対する指導、監督の強化
- 3 加工冷凍食品の表示の改善
- 4 国内での加工食品、農産物生産拡大と食料自給率の向上

提出先 内閣総理大臣・財務大臣・外務大臣・厚生労働大臣・経済産業大臣・衆議院議長

2 女性の一生においてHPV感染の可能性が高いこと、また予防可能ながんであることをかんがみ、予防ワクチンが承認された後は、その推進を図るために接種への助成を行うこと

3 日本におけるワクチンの

**介護労働者の待遇改善を求める意見書**

介護労働者は、人間の尊厳にかかわる崇高な仕事をしているにもかかわらず、低賃金、長時間重労働など、その劣悪な労働環境から離職率も高く、待遇改善が待たなしの課題となっております。早朝から深夜までの重労働の上、人手不足で疲れても休暇も取れない。こうした厳しい現実を直視して、このままでは生活できない、将来に希望が持てない、耐え切れず退職していくケースが多発しております。



今後、団塊世代の高齢化などにより、少なくとも今後10年間で、40万人から60万人もの介護職員の確保が必要とされており、介護に携わる人たちがいなくなれば介護保険制度も立ち行かなくなり、まさに介護保険制度の根幹を揺るがす問題です。

介護に携わる人たちが誇りと自信を持って仕事ができるよう、また安心して暮らせるよう、政府においては、次の点について特段の取り組みを行い、労働条件や福利厚生の上昇に全力を

開発、製造、接種のあり方に関して、世界の動向等も考慮し検討を進め、必要な対応を行うこと

提出先 内閣総理大臣・厚生労働大臣

1 全労働者の平均を大きく下回っている給与水準の実態を職種や勤務形態ごとに把握し、低賃金の原因とその是正策を早急に検討すること。その上で、それぞれの介護事業者がキャリアと能力に見合った適切な給与体系を構築できるように介護報酬の在り方を見直し、次期介護報酬改定で適切に措置すること

2 昨年8月示された福祉人材確保方針について、福祉・介護サービスを担う人材確保のため、労働環境の整備やキャリアアップの仕組みの構築など早急な取り組みを進め、福祉・介護現場における指針の実現を図ること

3 小規模事業所などにおける職場定着のための取り組み支援や労働時間短縮のための事務負担軽減策、さらには、事業所の労働条件等労働環境に関する情報開示など介護労働者の待遇改善のための総合的な取り組みを進めること

提出先 内閣総理大臣・厚生労働大臣

**6月定例議会を傍聴された方からご意見・ご感想をいただきました**



**6月定例会の傍聴者数**

6月2日	2名
6月5日	17名
6月6日	7名
6月9日	7名
6月10日	1名
合計	34名

**傍聴席から**

町の情勢など少しだけだが、分かった。三芳町に永住するのであれば、自分たちが選んだトップの方々が町のためにどのようなことをしているのか傍聴したほうがよいと思った。(藤久保Wさん)

中学3年生までの入院費拡大は、早く推進してもらいたいと思います。また、納税のコンビニ化の件ですが、私も20代ですが、公共機関・役場などで払うには時間が間に合わないし、日曜日休みの人には、コンビニ払いにしてもらえるとありがたい。納税をしたくても時間が間に合わないで24時間いつでも払えるコンビニでの納付を推進していただきたい。

23年間生きてきて今日初めて傍聴しましたが、普段見られない議員の大変さが分かりました。また、ぜひ傍聴に来たいと思います。(藤久保Yさん)

町議になる前に行政連絡区の役員及び民児協に席を置いていた本人が議会で質問とは。議会の時間が無駄である。三芳町をよくするための方策等の議題が欲しい。(藤久保Yさん)

傍聴者閲覧用議案は、大変役立ちました。できることならコピー等が可能になるともっとよいのではないのでしょうか。一般質問の時間が短いのではないのでしょうか。(上富Tさん)

他にもたくさんのご意見をいただきましたが、一部をご紹介します。

**アナログ放送から2011年デジタル化放送移行の延期を求める意見書**

送を配信するケーブルテレビへの加入など、いずれかの方法が必要となります。

しかし、若者から高齢者まで、少ない年金、庶民増税などで、生活上の困難さからテレビの買い換えができない、毎月新たに約2700円も払えないなど、国民にはより重い負担にとまどいがあり、「テレビ難民」は数百万人になるおそれがあるとの分析があります。

また、放送局の準備状況を見ても、いま視聴者、放送局の双方が、期限までに地上デジタル化への準備が整わないこ

政府が、アナログ放送を打ち切つて、デジタル化への完全移行を予定する2011年7月24日まで、あと3年余となりました。いうまでもなく、地上デジタル放送を見るには、①地上デジタルに買い換え、②アナログテレビにチューナーを取り付け、③地上デジタル放送を地上デジタル放送へ必要となります。



とが明らかになっていきます。アメリカでは、06年にデジタル化へ完全移行する予定でしたが、09年に延期しています。よって、政府に次のことを求めるものです。

- 1 視聴者と放送局の双方の環境が整うまで、完全地上デジタル化を延期すること
- 2 国及びテレビメーカー、関連メーカーの責任で、デジタル受信機の購入困難者への援助策を講ずること

提出先 内閣総理大臣・財務大臣・総務大臣・厚生労働大臣・経済産業大臣

# 議会活動日誌

## 5月

- 1日 県議長会広報研修会
- 14日 県町村議会議長会臨時理事会
- 16日 厚生文教常任委員会所管調査
- 19日 入間郡町村議会議長会役員会
- 20～21日 正副議長研修会
- 22日 都道府県会長会総会  
厚生文教常任委員会所管調査
- 23日 入間郡町村議会議長会総会
- 27日 埼玉県町村会定期総会
- 28日 議会運営委員会

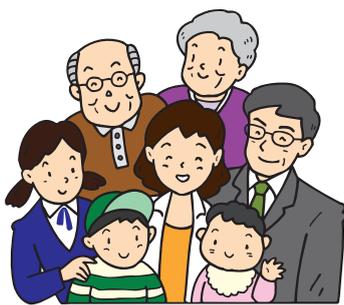
- 2日 厚生文教常任委員会  
全員協議会
- 3日 総務建設常任委員会
- 9日 厚生文教常任委員会  
議会運営委員会  
総務建設常任委員会
- 10日 全員協議会
- 13日 入間東部地区消防組合議会臨時会
- 17日 議会だより編集委員会

## 6月

- 2～10日 第3回三芳町議会定例会

## 7月

- 3～4日 入間郡議長会県外視察
- 9日 議会だより編集委員会
- 10～11日 議会運営委員会所管事務調査
- 16～17日 総務建設常任委員会所管事務調査



次の議会定例会は**9月1日(月)**開会予定  
皆様の傍聴をお待ちしております。

傍聴される方は、必ず6階議会事務局で受け付けをお願いします

FAX・メール等による、ご意見・ご要望もお待ちしております。

9月5日(金)に、議会改革の一環として『夜間議会』を開催予定です。時間は午後6時から午後9時30分までで、議員3名の一般質問を行います。

普段、平日の昼間に行っている議会を多くの方に傍聴していただけるように実施しますので、お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

## 編集後記

保健センターで実施される4ヵ月  
児健診のとき、赤ちゃんに絵本を贈  
呈する「ブックスタート事業」が今  
年6月より始まりました。

当日は、この日のために研修を受  
けた4人の図書館司書が、お母さん  
と抱っこされた赤ちゃんに読み聞か  
せを実施。絵本をじっと見つめる我  
が子に、お母さんはビックリして  
「まだ絵本は早いと思っていました  
が、もう分かるんですねー」と感動  
していました。

絵本は赤ちゃんの「心のミルク」  
と言われ、情緒の発達により影響を  
与えます。また、絵本を通し、大人  
と赤ちゃんが楽しいひとときを一  
緒に過ごすことは、大人にとっても心  
安らぐ子育ての時間となり、子育て  
の不安解消や、あつてはならない児  
童虐待を防止する一処方箋として、  
力強い味方となることでしょう。

さて、6月議会補正予算で学校図  
書室パソコンのリニューアルや図書  
検索のポータルサイト利用に予算が  
付きました。本の大好きな「三芳っ  
子」が、立派な人へと成長すること  
を心より願っています。

(議会だより編集委員 内藤)

- 委員長 神田 順子
- 副委員長 菊地 浩二
- 委員 内藤 美佐子
- 委員 山田 政弘
- 委員 光田 重之
- 議長 秋坂 豊